医療法人喬成会　花川病院　広報誌

つながる手と手

～はなかわからのメッセージ～

第 15 号

もくじ

●石狩リハビリテーション・地域連携懇話会のご案内
●着任のご挨拶
●「2017 ふれあい広場いしかり」に参加しました
●喬成会夏祭りのご報告
●花川南睦美町内会「ふる里夏祭り」で太鼓演奏をしました！
●感謝祭のご報告
●季節柄増える疾患とその予防について（秋～冬）
●花川病院のリハビリテーション部はこんなところ
●『トヨタ製下肢麻痺リハビリ支援ロボット』
花川病院に道内初導入！！
●患者さんと一緒につるし飾りボランティア活動

●平成 29 年 10 月 4 日発行　●発行人：憲克彦　●編集長：金子宏美　●企画・製作：花川病院地域連携相談センター
医療法人喬成会花川病院　〒061-3207　石狩市花川南 7 条 5 丁目 2 番地　代表電話（0133）73-5311
花川病院ホームページ　http://kyouseikai.jp/

石狩リハビリテーション・地域連携懇話会のご案内

花川病院では、医療･看護･介護の連携をより強めるため、リハビリテーション病院の立場から、皆様に役立つ情報提供や交流ができる場を設ける目的で「石狩リハビリテーション・地域連携懇話会」を開催しております。

前回は、北海道医療大学リハビリテーション科学部 作業療法学科教授の近藤里美先生より「音楽療法　～音楽と私たちの深い結びつき～」という題で講演いただきました。音楽療法に関する動画や、実際に音楽楽器を用いた体験も含めた説明など、音楽療法について分かりやすくお話いただきました。講演後の質疑応答や懇親会においても先生を囲んで音楽療法で使用する楽器など体験させていただき質問についても丁寧に答えてくださいました。

第 17 回目となる次回は、10 月 13 日・札幌ガーデンパレスにて、慶應義塾大学リハビリテーション医学教室教授の里宇明元先生をお迎えし、「革新的ニューロリハビリテーション機器の開発とシステム化～スマートリハ室構想～」と題して講演いただく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。（保健師いけだ）

着任のご挨拶

今年の９月より、健育会グループの熱川温泉病院より、田地英生マネージングディレクターが着任いたしましたので紹介いたします。

田地英生（たじひでお）

埼玉県　所沢市出身

野球・ゴルフ・マリーンスポーツなどスポーツ万能、かつては、少年野球を長年教えており、プロ野球選手の二世を教えていたことも！

管理栄養士の有資格者で一日 800 人以上の外来患者さんが訪れる超急性期病院で管理栄養士として働きながら、事務当直や受付業務なども一手にこなす超仕事人。

健育会グループに入職後も、その勢いは増すばかり。当院でも現在取り入れているＥＰＡ制度が始まる前からフィリピンなど海外の看護師や介護職員をグループ独自に導入した第一人者。『現地に出向き、現地の人と触れ合い、現地の文化を学び、導入する。』そのプロセスこそ、患者・家族・利用者第一の考えゆえ。言葉がわからないもの同士で

も「笑顔で会話をする」「自然と笑顔が生まれる」「笑顔の大切さを学んだ」「何でも共にやってみることが大好き」という田地ディレクターの優しく誠実なお人柄と溢れるようなエネルギーに圧倒されながら、これから一緒に仕事ができることにワクワクしながら紹介させていただきます。（MSW かねこ）

今年の 7 月から医療ソーシャルワーカーとして勤務している木田智也（きだともや）と申します。

前職は、急性期と慢性期の機能を持つ札幌市内の病院で 17 年間医療ソーシャルワーカーとして働いていました。なので、歳だけはいっていますが、40 歳の新人になります。

転職を機に、通勤環境や勤務環境が一変し、まだまだ慣れない毎日が続いています。あっという間に一日が終わり、あっという間に一週間が過ぎていく感じです。

入職して 3 か月が経ちますが、恥かしながら未だにわからないことが多く、いつも職員の皆さんにご迷惑をおかけしています。

石狩市の事もまだまだ勉強不足なので、機会をもらって様々な催し等に参加させていただき、多くの方々と交流をもたせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

「2017 ふれあい広場いしかり」に参加しました

7 月 15 日、ふれあい広場いしかりが開催されました。年に一度開催されますイベントでここ数年ボランティアとして参加させていただいています。年に一度しかお会いできないボランティアの方々もいらっしゃるので、元気な姿でお会いできるのが活動以外でも楽しみとなっています。

石狩市りんくるの屋内外にて、アイマスク体験や伝統的なおもちゃ作りや焼き鳥、焼きそばかき氷などの屋台も充実しておりたくさんの方が来場されます。

私たちは、やき鳥・やきそば・ほたての販売の対応をしました。手際の良い地域の方々に指導いただき暑い中でしたが、楽しく交流、活動することができました。

地域に出向いてみてわかることがたくさんあります。ものすごくパワーも活動力もあり人生経験豊富な皆さんから学ばせて頂くことが多くあります。今後も様々な活動に参加していきたいと考えています。（MSW かねこ）

喬成会夏祭りのご報告

７月２６日、毎年恒例の喬成会夏祭りが開催されました。当日は晴天ということもあり、たくさんの方々にご来場いただき、患者さんやご家族、お子さんたちに楽しんでいただけました。

職員は毎年恒例の夏の風物詩、浴衣や甚平・法被を着用♪地域のボランティアの方に協力いただき、着付けをして頂き夏祭り一色♪

憲院長の挨拶でいよいよ夏祭り開催です！「レバンガ北海道」の選手の皆さんによるフリースロー対決が始まり、シュートが決まる度にお子さんたちの歓声が上がり、プロのプレイに終始魅了されていた様子でした。盆踊りも患者さんやご家族が次々と参加し、最終的には大きなのひとつの輪となり会場の熱気が最高潮に！職員から構成される太鼓の演舞。「舞鼓花（まいこばな）」「音鼓華（おとこばな）」による華やかでかつ力強く、好評をいただきました。同じく職員から構成されるよさこいチームの「健龍嵐舞（けんりゅうらんぶ）」も練習に練習をを重ね、多数で結成した踊り子の笑顔と迫力のある舞を披露できました。

出店も多数！美味しく楽しんで頂けました。今年で開催２回目となるスタンプラリーではお子さんたちの参加がとても多く、お友達同士で協力し合いながらスタンプを集め、景品のお菓子も喜んでいただけたようです。

昨年は雨天となり、開催できないイベントが多くありましたが、今年は予定通りすべてのイベントを無事に終えることができました。ご協力いただいたボランティアの方、地域の皆さんに感謝し、来年も晴れることを祈り、皆さんに楽しんで頂ける内容にしていきたいと思っています。（MSW なかた）

花川南睦美町内会「ふる里夏祭り」で太鼓演奏をしました！

８月５日、当院が所属している花川南睦美町内会の「ふる里夏まつり」が盛大に開催されました。町内会の一大イベントとあって、たくさんの地域の皆さんがご来場されました。

花川南睦美町内会の皆さんには花壇の整備や喬成会夏祭りのお手伝いをはじめ、大変お世話になっており、日頃の感謝の意をこめて職員の力を還元すべく総勢 12 名の職員で参加いたしました。

当日は天候に恵まれ絶好のお祭り日和。ヤキトリやおでん、おもちゃくじなどお祭り

の雰囲気を盛り上げる屋台も充実していて開始 2 時間で早くも売り切れの商品が出るほどの売れ行きです。子ども盆踊りやビンゴ大会が賑やかに行われ、子ども達の元気な声に会場が包まれていました。

太鼓演奏の場内アナウンスが流れるとメンバーに若干の緊張が走ります。男性で結成される「音鼓華」女性で結成される「舞鼓花」のクスッと笑いが漏れてしまうメンバー紹介が終わるといよいよ演奏です。暖かい拍手や「アンコール」のお声に俄然テンションが上がるメンバー達。この日のために練習を重ね、夏祭りの楽しく賑やかな雰囲気の中、地域の皆さんに勇姿を披露できたのではないかと思います。いつも暖かく迎えてくださる花川南睦美町内会の皆さん、ありがとうございました。

（ボランティアコーディネーターいしぐろ）

感謝祭のご報告

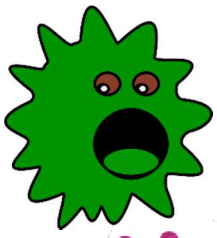
９月１８日、今年も敬老の日にあわせて「感謝祭」を開催しました。前日からの台風の影響で、当日はあいにくの雨でしたが、院内は外の天気とは打って変わって、風船や紙で作ったお花の飾りで色鮮やかに装飾されていました。今回は、入院中の患者様ご家族で、「風船装飾職人のよっしー」さんのご協力のもと、大小様々なお花や動物を風船で作っていただき、1 階ホールを中心に飾り付けしました。壁一面に飾られたお花の壁は一際目を引き、子供を対象にしたバルーンアートコーナーでは、患者様のお見舞いに来た小さなお子さん達が楽しそうに風船を作っていました。

当院料理長が丹精込めて仕上げた昼食は、和と洋のコラボレーションをテーマに、秋野菜と海の幸のサラダ、雲丹を載せた茶碗蒸し、道産北あかりのマッシュポテトを添えた牛肉のラグーと秋を満喫できる内容ばかり。ランチタイムコンサートとして、毎年来ていただいている「ＳＩＯ　ＵＮＩＴ」さんの優雅な生演奏が流れる中、患者様はそれぞれご家族と笑顔を交えて楽しい食事のひと時を過ごされていました。

食後のイベントでは、昨年大盛況だった「緑の妖精やまちゃん」に今年も来ていただき、笑いを交えたマジックショーを披露していただきました。職員によるＹＯＳＡＫＯＩチーム「健龍嵐舞」も力溢れる踊りを披露し、1 階ホールでは「はなカフェ」でご好評の徳光珈琲、フルールドゥペーシュさんの出来たてパンを提供させて頂きました。感謝祭が終わる頃には晴れ間も見え、大大大盛況のもと終えることが出来ました。足元の悪い中、来院いただきました皆様に感謝申し上げ、また来年に向けてワクワクしながら準備をしていきたいと思います。（MSW あきもと）

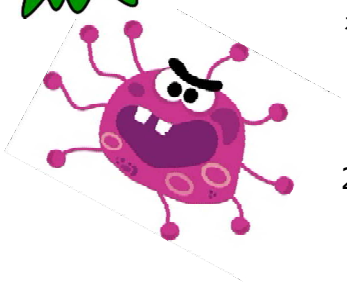
季節柄増える疾患とその予防について（秋～冬）

　過ごしやすい秋になり、食欲・スポーツと元気いっぱいのイメージですが、実は、秋は病気になり医療機関を受診する人が一番多いのです。この時期は急な冷え込みや、季節の変わり目で体調を崩しやすい時期なのです。
特に高齢者や子供は免疫力が弱いため注意が必要です。
秋から冬に流行する病気はＲＳウィルス、インフルエンザ、ノロウイルス、喘息などがあります。
①ＲＳウィルスは呼吸器系感染症で鼻水、咳、発熱といわゆる風邪症状です。ほとんどが乳幼児ですがたまに高齢者にも感染いたします。
②インフルエンザは急激な高熱 38℃以上と筋肉痛などの全身症状で、10 月からワクチン接種が始まります。必ずしもワクチン接種をすると感染しないとは言えませんが、ワクチン接種をすることで症状の重症化を防ぐことができます。
③ノロウィルスはウィルス性腸炎です。嘔吐、下痢症状が中心ですが、嘔吐物や排泄物が付着、空中に飛び散り感染します。感染力が強く集団感染となります。
④喘息は湿度や気温差が大きくなると発症してきますので早めに予防薬を処方してもらいましょう。
①～③の予防は手洗い・うがいです。また、流行の時期は人混みをさけ必要時はマスクをしましょう。
　さらに、Ｏ１５７、腸管出血性大腸菌感染症についてです。Ｏ１５７は初夏から秋にかけて多発します。
今年は病院、スーパーの惣菜、焼き肉店などから発生し幼児や高齢者が不幸にも死亡され大きなニュースになりました。多くの場合は回復しますが重症化・合併症の併発が問題になります。
Ｏ１５７は胃酸の中でも生き残り感染力が強く、一般の細菌感染の食中毒は、約 100 万個の多量の細菌が侵入しないと症状は出ませんが、Ｏ１５７は 50 個から 100 個程度の少ない数の細菌侵入で発生します。
Ｏ１５７は本来牛や豚などの家畜の腸をすみかにしている細菌で、家畜の糞尿から土壌に細菌がうつり野菜や食物を汚染します。
人から人へ感染する場合は、感染者の便に含まれた菌が直接・間接的に口に入る場合です。また、焼き肉店で生肉や加熱不十分、箸（トング）からの感染事例があります。潜伏機関は２～5 日、1～2 週間は便の中に出ています。
急な腹痛、下痢が続き血便となりますが、早期に受診することで重症化を防ぎます。予防として肉は十分な加熱、生肉調理のまな板、包丁は必ず洗った後に野菜や果物調理を



する、生野菜は流水でよく洗う、調理器具の消毒（ブリーチ）などです。また、トイレの後、動物に触れた後などは必ず石鹸で手洗いをする、調理の前、食事前も意識して手洗いをしましょう。

ちなみに当院の厨房職員の健康管理についてです。毎月、Ｏ１５７を含めた便検査をしています。さらに 10 月から 3 月までノロウィルスの便検査を追加検査しています。入院患者さんへ安全な食事を提供するためです。



2017 年もあと残り 3 ヵ月。このまま元気で過ごしましょう。

（総看護師長にわ）

花川病院のリハビリテーション部はこんなところ

当院のリハビリテーション部には 110 名の専門職が在籍しています。

チーム医療を重視し、リハビリ専門医・主治医・看護師など多職種と連携し、脳血管疾患、運動器疾患、内科疾患など多様な疾患に質の高い専門的な視点で総合的なリハビリテーションを提供しています。退院後にはフォローアップとして、外来リハビリや訪問リハビリを提供し、安心して住み慣れた自宅で円滑に生活できるようサポートさせていただいています。

当院の敷地内に作られたリハビリガーデンは階段や緩やかなスロープ、休憩用のベンチ、さまざまな素材の路面があり、たくさんの木々やお花を見ながらリハビリすることができるため、屋外歩行時にはほとんどの患者さんが（時にはご家族と一緒に）利用しております。

今後も患者様に満足いただけるよう質の高い確かなリハビリテーションを提供させていただきたいと思います。

（リハビリテーション部長おかもと）

リハビリテーション部より最新情報

『トヨタ製下肢麻痺リハビリ支援ロボット』

花川病院に道内初導入！！

平成 29 年 10 月に、道内初となるトヨタ製の『下肢麻痺リハビリ支援ロボット（ウェルウォーク)』を導入します。

身体状況に応じて難易度調整や歩行状態のフィードバック機能などを備え、従来の歩行リハビリと比べて**回復速度は約 1.6 倍**にもなるという最新鋭のリハビリ機器です。

脳血管疾患の片麻痺患者を対象とし、通常のリハビリでは歩行改善が難しい方を対象に開発された『下肢麻痺リハビリ支援ロボット』です。

「ウェルウォーク WW-1000」

当院はＰＴ54 名、ＯＴ36 名、ＳＴ20 名の総勢 110 名のセラピストが在籍しており、患者 1 名の平均供給単位数は 7.62 単位(約 2～3 時間)で、365 日稼動し、土日祝日も平日と同等に充実したリハビリテーションを提供しています。

入院時から退院時までの**ＡＤＬ改善（ＦＩＭ利得）は 26.4 点**で、全国平均以上の改善結果です。『下肢麻痺リハビリ支援ロボット（ウェルウォーク)』を導入し、さらにＡＤＬ改善を図り、満足していただけるようチーム医療を提供していきます。

（リハビリテーション部　おかもと）

患者さんと一緒につるし飾りボランティア活動

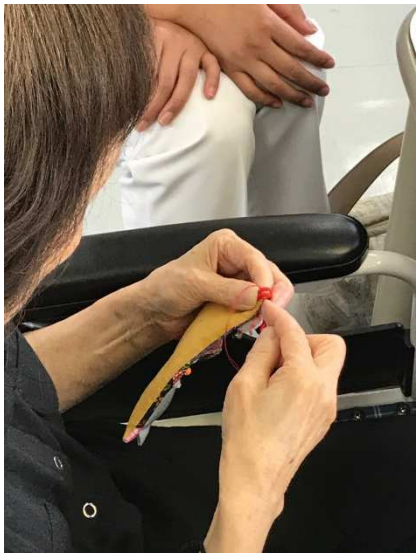
当院では地域のボランティアさんのご協力のもとつるし飾りの活動をしています。ちりめんなどの生地で作られた季節のつるし飾りで院内がとても華やかに飾られており、患者さんやご家族、ご面会に来られた皆さんからも喜ばれています。

先日つるし飾りの活動に「ちょっとやってみたい」と、リハビリスタッフとともに患者さんが参加されました。

元々は右利きだったこちらの患者さんですが右手が不自由になってしまったため、左手で針を持って飾りを縫い付けていきます。ゆっくりですが、とても丁寧でキレイな仕上がりです。

クリスマスツリーに飾りをつけていくのですが、好きな糸と飾りを選んで、飾りをつける場所ももちろんご本人のセンスにおまかせしました。

「できなくなった」と、諦めるのではなく「やってみる」ってすごいことなのだと改めて実感しました。リハビリの時間が終わってしまったので「次回のリハビリでもやってみる」と、お持ち帰りされました。今から完成が楽しみです。



また、別の患者さんには壁に掛けるための紐を縫い付けていただきました。とても手際よく丁寧な針裁きです。ボランティアの皆さんと手分けしてあっという間に 72 個の紐付けが終わりました。

ボランティアさんから患者さんへ「これ試作品だけれど良かったらどうぞ」とツリーをひとつプレゼント！思いがけないプレゼントに患者さんも職員もほっこり嬉しい気持ちになりました。ボランティアさんと相談しながらかわいく飾りつけて完成です。

人と人の繋がりってこういう何気ない思いやりが大切なんだなと改めて勉強することができました。日々学習ですね。（ボランティアコーディネーターいしぐろ）

編集後記

秋本番！！朝晩の寒さに暖房の恋しい季節となって参りました。果物や野菜の美味しい季節柄、ついつい秋太りになりがちですが（私ごと）皆さんいかがお過ごしでしょうか？

さて、第 15 号はいかがでしたでしょうか？行事や地域のイベントなどのボランティア活動を通じて職員と患者さん・地域の方が繋がっていることを日々実感させていただいています。健康教室や出張講座も随時受付開催中。次号もご期待ください。（かねこ）